



NO.019

永観堂に嵐山、三千院に清水寺 秋の京都西に東に紅葉狩り

四〇度超えの猛暑もどこへやら、街はすっかり秋模様に。

京都には市中いたるところに紅葉の名所が点在している。北は大原の三千院に寂光院、南は東福寺に醍醐寺、東は南禅寺に永観堂、西は嵐山の天龍寺に大覚寺。

清々しい秋空の下をそぞろ歩いて紅葉狩り、夜は秋の味覚に舌鼓：という観光客が、特にこの時期は国内外から京都に押し寄せて、市中の賑わいに一役も二役も買っている。

紅葉を楽しむなら、夜のライトアップは外せないところ。十一月から十二月にかけて、様々な神社仏閣が夜間特別拝観を行っている。中でも高台寺や東寺は、池の水面に映り込む紅葉の姿がそれは幻想的で美しい。

そして言わずと知れた清水寺。本堂から錦雲峽を見下ろすと、さながら朱色の海のごとく、約千本の紅葉が灯りに照らされて、眼下の漆黒に赤々と浮かび上がる。

話は変わるが、お隣の中国にも、四大紅葉観賞地と呼ばれる名刹がある。蘇州の天平山もその一つ。今月の動画は「蘇州夜曲」とバッハの「G線上のアリア」をリミックスした、異国情緒あふれる京がたりナンバー。お楽しみあれ。

ひいさま(松根裕美)

京都生まれ、京都育ち。
学生時代は日英を問わず朗読や作文に多く携わる。高校時代、裏千家主催学校茶道体験論文コンテストにて優秀賞受賞、第18回裏千家ハワイセミナーに招待。京都私学ESS連盟主催英語暗唱大会優勝、英語弁論大会優勝。大学時代、世界遺産「下鴨神社」で十二単王朝舞を学び、名月管絃祭で舞を奉納。現在は京がたりの舞台活動に加え、一般社団法人さきものカラーコーディネーター協会認定講師として、きもの・色・ことばに関わる各種レッスンやコンサルティングを、名古屋を中心に各地で展開。さきものカラーワークやセルフ和髪レッスンなど、地方や海外からも生徒が訪れる人気講座を運営。
Instagram→ @hiromimatsune



ひいさま 藤間勘萃 幻燈館

文中で紹介した動画を YouTubeでご覧いただけます。

QRコードを読み取っていただくか、「藤間あれはいつかの」で検索して下さい。

藤間勘萃

1958年に名古屋で生まれ、1977年にデビュー。
日本舞踊家(宗家 藤間流 名執)/楽師としてNHK「日曜美術館」や「花の舞・花の宴」、養老孟司(東京大学名誉教授)との「以心伝心・以身伝心」、久田舜一郎(小鼓方 大倉流15代宗家)との「秋天の興」など放送や舞台上に数多く携わる。作/編曲家として「世界デザイン博覧会」テーマ館音楽、名古屋市芸術祭主催公演テーマ曲、関西二期会オペラ、合唱曲「弥陀観音大勢至」(深井丸 興西寺所蔵)、「おとほぎ」(あいちオカリナ フェスタ テーマ曲)、音楽版「浄土真宗 正信偈草四句目下」(光壽山 阿彌陀寺所蔵)などを手掛ける。名古屋音楽大学音楽学部 作曲学科卒業。日本福祉大学 社会福祉学部を経て、現在、東海学園大学 教育学部に講師。



ひいさま 藤間勘萃の
ホームページはこちら



美しい風紋を描く広漠たる大地の「鳥取砂丘」

旅で磨こう「文化力」⑰

「潮の匂いに包まれながら 砂に埋れて眠りたい…鳥取砂丘の道は迷い道」。水森かおりの哀調を帯びた「鳥取砂丘」のヒット曲を聴くたびに、鳥取で過ごした2年足らずのことを思い出す。単身赴任で期間も短く、生活したというより、長期滞在の旅だった感もある。鳥取と言えば砂丘。この地で出会った遠山正瑛・鳥取大学名誉教授(2004年死去)のことは忘れられない。「鳥取のシンボル砂丘は死にかかっている。人の手で再生を図らなければならない」と訴えていた。私は在任中も、その後も、鳥取砂丘の保存に関わることになった。

無数の足跡の間にうすらと波打つ風紋 鳥取砂丘については、青春時代の思い出がよぎる。「浜坂の遠き砂丘の中にして 佇びしき我を見出でるかな」。作家の有島武郎は1923年(大正12年)、鳥取砂丘に立つて、遂に佇しき我を見いだし、同年6月9日軽井沢浄月庵で人妻秋子と情死する。鳥取砂丘を浮上させた彼の人生最後の山陰講演旅行での一首となった。

文学好きだった私が有島の旅を偲び、初めて鳥取砂丘を訪れたのは60年以上も前の大学2年の春だった。友人と競い息せききって砂山を駆け登った。風の強い日だった。無数の足跡の間にうすらと波打つ風紋が美しい。眼下に目をやると夕陽に映える砂丘が広がり、遠くに目をやると日本海の海原が続く。雄大な自然を強く印象づけられた。



風紋が美しい鳥取砂丘(鳥取県提供)

それから20数年経った1989年秋、私は朝日新聞鳥取支局長として着任した。冒頭に記した遠山さんの言葉に刺激されたこともあって、数日後に砂丘高台の長者ヶ庭に立つてみた。

日本海の青さが目にしみたが、陸地側に目を転じた時、保安林や草地の緑が目立ち、砂丘の広漠さが失われていた。学術文化財天然記念物で鳥取の代名詞ともいえる砂丘。その砂丘のイメージが変容してしまつては……との感慨を深めたのだった。

その後も遠山さんは、予告なしに支



緑化が進んでいた鳥取砂丘(1989年)

局にふらつと現れては熱っぽく砂丘保存を訴えた。「砂丘は自然に生まれ、自然に育ってきた。しかし砂防林や砂防ダムが砂や風の動きを止め、呼吸を困難にしている」「補助金目当ての役人行政、おんぶにだっこの県民性。保守的なお国柄も考え直さなきゃならん。砂丘の自然保護と自然放任とを取り違えている」「寝たきり青年」はいつになったら目覚めるのか。目覚めさせるのは老人の責務である。そしてこう断言した。「このままでは砂丘は死ぬ」。

国民的財産ともいえる「鳥取砂丘を再考

中国の黄河流域の黄土沙漠の緑化に取り組んでいた遠山さんが、あえて砂丘保存を訴える言葉に、私の心は動かされた。それではどうすれば砂丘を再生できるのか――。単に砂防林を伐採したり、草を根こそぎ除去すれば済む問題ではない。支局で論議を重ね、鳥取砂丘を1990年の年間テーマとして取り上げることになった。

「地球規模での砂漠化が課題になっている時に、緑化が困るとは」「自然保護が叫ばれている時に人の手を加えるとは」……。砂丘保存には逆説的な問いかけがあった。そして何より21世紀まで残すところ10年になつていたこの時期に、「砂丘の明日を考える材料を」読者に提供しよう、との位置付けがなされた。

連載は1990年正月元日の特集紙面でスタート。支局員のほとんどが

「このままでは砂丘は死ぬ」の訴えに再生の道探る

入社して間もない記者だったが、「事件の少ない鳥取で、共通の仕事と出を残そう」と励ましあって、第十部まで回を重ねた。

連載の第一部は「日本一の起伏」と題して総論的な問題提起をした。その後、観光の現状や砂丘にまつわる事件簿、砂丘を舞台にした文学や絵画、写真、マンガなど表現の世界、開拓者の闘いと夢……と多面的に取り上げた。しかし記者の目を通してとらえてきた砂丘について、県民はどう考えているのかの視点が必要に思えた。

その一環として「鳥取砂丘をめぐる県民意識調査」も実施した。600人を抽出し469人から回答を得た。回収率は83%。その結果、鳥取砂丘は県民の貴重な財産が91%、しかしその姿について「昔と変わらない」がわずかに2%。砂丘保護について「県や地元」の市町村が取り組んでいるが23%、国は11%に過ぎなかった。県民の間にも、「保存対策が急務だ」の声の高まりを痛感した。

新聞の連載は最後にまとめて読まれることによつて、問題提起の全体像が明確になる。といつも読者はそう思った読み方はしてくれない。連載時から「ぜひまとめて出版したい」と考えていた。

その3年後の1993年、地方文化に理解のあった富士書店から「鳥取砂丘」が刊行された。私は金沢支局長に転任していたが、連載を抜粋したもの、当時の支局員の大村康久記者が新たに取材し直した。

その序文に、私は「この出版が県民にとつてあまりにも身近にあつて、ともすれば空気がたいな存在になりがちな砂丘を改めて見直すお役に立てば幸いです」といった一文を書いた。

遠山さんの問題提起によつて、私が提唱していた「砂かけフォーラム」は、鳥取青年会議所も動き、離任後に実現した。私は、国民的財産ともいえる砂丘の在り方を考える材料を提供できたことを確信している。

画期的な「砂の美術館」が新観光名所に時を経て2006年11月、鳥取砂

丘を背景に砂像を展示するプロジェクト「砂の美術館」がスタートした。野外展示に始まり、大型テント内の展示を経て、2012年に世界初の砂像専門屋内展示施設が誕生し、新観光名所として現在に至っている。

砂像彫刻家兼プロデューサーとして国内外で活躍している茶園(ちやえん)勝彦氏が総合プロデュースを務め、海外各国から砂像彫刻家を招き、毎年世界最高レベルの砂像を展示している。会期が終われば作品を全て崩して、もとの砂に戻し、再びその砂を使用して新たな作品を制作することが限られた期間しか存在することができない砂像そのものが美しい造形を創り上げるために、砂像彫刻家は情熱を注ぎ込むのだ。永遠に残らないがゆえの美しさ、砂像のもつ大きな魅力となっている。

「砂で世界旅行」をコンセプトとして、定期的にテーマを変えて展示を行なってきた。そして現在は2026年1月4日まで第16期展示「砂で世界旅行・日本」を開催している。「大阪・関西万博」の開催にあわせて、12か国・20人の彫刻家たちが「日本」の風景や建築物などを題材に制作した19点が展示されている。

このうち、幅およそ20メートル、高さ5メートルほどの大きな作品は、雄大な富士山の両脇に精巧な姫路城と清水寺が配置され日本の景勝地を並べて見ることができると。また、京都の「平等院鳳凰堂」を形づくったものは、国宝の本尊、阿弥陀如来坐像も緻密に再現されていて、張られている水に建物反射して浮かび上がる。



『鳥取砂丘』の表紙

気の遠くなるような年月を経て作り出された、自然の造形美である「鳥取砂丘」。その広さは東西16キロ・南北24キロに及ぶ。特別保護地区であり、国の天然記念物にも指定されている。こうしたかけがえのない砂丘を次代へ継承していかなければと願う。「鳥取砂丘」の道を、迷い道」にしてはならない。



白鳥正夫プロフィール

1944年8月14日愛媛県新居浜市生まれ。中央大学法学部卒業。朝日新聞社定年退職後は文化ジャーナリスト。著書に『絆で紡いだ人間模様』『シルクロードの現代日本人列伝』『新藤兼人 未完映画の精神』『幻の創作ノート』『太陽はのぼるか』『アート鑑賞の玉手箱』『夢をつむぐ人々』など多数

この指とまれ (356) 氏原朝信

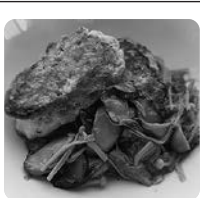
昭和56年度常滑西小学校一年一組「なかよし」

ました。ゆう子ちゃんが「あったかいね」といったので、わたしもまねをして、「あったかいね」といいました。

おみやさんについてお金をほうかつたら、だれかのあたまにお金があたりました。おばさんにあたりたけど、おばさんはしらなかおをしていました。そして、となりにあるから、となりにいきました。ほうかると、まただれかのあたまにあたりた。いけないから、おかあさんにほうかつてもらいました。

「砂で世界旅行」をコンセプトとして、定期的にテーマを変えて展示を行なってきた。そして現在は2026年1月4日まで第16期展示「砂で世界旅行・日本」を開催している。「大阪・関西万博」の開催にあわせて、12か国・20人の彫刻家たちが「日本」の風景や建築物などを題材に制作した19点が展示されている。

「しんたいそくてい」をやるからふくをぬぎなさい」と先生がいったのでふくをぬぎました。きょうしつの中は、とてもさむかったです。けれど、ほけんしつに入ったら、とてもあつたかかったのでほつと



鶏むね肉のふんわりやわらかいハンバーグは冷めても固くならないのでまとめて作り置きしておくこともできますよ。

料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!

簡単! きのこソースの豆腐ハンバーグ

- 【4人分】
- 材料
- 豆腐(木綿) 2丁(ペーパータオルで包み重しをのせて30分以上水気をきる)
 - 鶏むね肉 200g
 - 玉ねぎ 1/2個
 - 片栗粉 大さじ1
 - 酒 小さじ2
 - 胡麻油 大さじ3
 - しめじ 1パック(石づきを取り除き小房に分ける)
 - えのき 1袋(根元を取り除き4等分にカットしほぐす)
 - しいたけ 4枚(石づきを取り除き薄切り)
 - 生薑ペースト 小さじ2
 - みりん 30cc
 - 醤油 20cc
 - 酒 15cc
 - 塩 小さじ1/2
 - 水 100cc
 - 片栗粉 大さじ1
 - 水 大さじ2

作り方

- ①Aをフードプロセッサーに入れ、しっかり混ぜ合わせ12等分しておく。
- ②フライパンに⑧大さじ1入れ、中火で熱し、①をカレースプーンですくいフライパンへ低い位置から小判型に4個落とし入れる。片面4分程火入れた後しっかり焼き色を付けてひっくり返し、さらに4分程焼き、皿に取り出す。残りも同様に焼く。
- ③②のフライパンをペーパーでふき取り、きれいにしてから⑥を加えしんなりするまで炒め⑥を加え入れ、沸騰したら⑥をよく混ぜてから⑨を入れ②を加え絡め合わせる。
- ④皿に盛り付け完成! おろし大根などを添えていただきます。



知多の新鮮たまご 発酵ケイフン

(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ堂380 TEL0569-73-6341



ました。ゆう子ちゃんが「あったかいね」といったので、わたしもまねをして、「あったかいね」といいました。 どうしていつもほけんしつはあつたかいんだろうとおもいました。

※さむい教室からあつたかいようなあつたかい気持ち が伝わってきます。

常滑の町で 自然と共に眠る 大阪屋樹木葬常滑北

誠意を込めて安心のお手伝い 大阪屋葬祭

常滑ホール 鬼崎ホール リビング常滑 リビング常滑北 TEL0569-35-4949

年中無休 24時間体制

大阪屋葬祭 | 検索

◎常滑市民文化会館

▼スタインウェイひとりじめピアノ体験(三月・祝・十六日) 午前九時半〜午後七時 関係者のみ 問合せ 常滑市民文化会館 ☎3531111

▼2025年度 地域を学ぶ歴史講座(六日(木)・十八日(火) 開講 午前九時半 開演 午前十時 同十一時半 入場無料 問合せ 日本福祉大学 知多半島総合研究所 ☎2010112

▼令和7年度文化の日記念「文化振興事業」第41回文協映画祭「梅切らぬバカ」(十五日(土) 開演 午後一時半 開演 午後三時 要整理券 問合せ 常滑市民文化

協会事務局 ☎3512920

▼令和7年度文化の日記念「文化振興事業」Cresc.ファミリーで楽しむピアノコンサート(二十一日(土) 開演 午後二時半 開演 午後二時 同四時半 入場無料 問合せ Cresc.ピアノ教室 ☎090854313236

▼市老連生きがい活動発表会・趣味の作品展(二十七日(木) 開演 午前九時半 開演 午前十時 正午 入場無料 問合せ 常滑市社会福祉協議会 ☎430660

▼令和7年度文化の日記念「文化振興事業」常滑市民吹奏楽団第47回定期演奏会(三十日(日) 開演 午後一時 開演 午後二時半 入場無料 問合せ 常滑市民吹奏楽団 ☎7326

新規採用教員、6年目で異動の制度が12月中旬頃、この制度の該当である私に異動用マシクシート用紙が教頭から手渡されました。私は常滑小学校から常滑西小学校で九年目でした。常滑西小学校と常滑東小学校との分割時に両校の勤務年数は初めから数えるということでした。当然本校での勤務年数は二年目であると思っていた私は頭の中が真っ白になりました。県教育委員会は常滑西小学校を本校扱いにし、ことを進めたようなのです。翌年2月、「本校には若い先生が少ないのとあと二年だから、引続き勤務してもらうことになった」と校長からのお達しがあり、十年勤務になったのです。

日々是好日

「主人の顔色伺う」

何度も機会があった、高校の仲良し男女グループの日帰り旅行。お誘いがあるうちに行っておかきやな、気持ちに焦るもの、なかなか主人には、言い出せない。県外はムズい。

主人は、外食も腰を上げない。仕事絡みの旅行なら、シブシブ参加する人。仕事で第一の姿は立派だけれど、遊び心が無いに等しい人は、チトつまらん。

私に真面目要素があつて、何とか面白みに欠ける主人に合わせる事が出来たからこそ、今も平穩に過ごせてるんじゃないかと自画自賛(笑)。相方は、そんな私の上をゆく人なかも知れませんが、まあ辛抱強いとか我慢強いとかの言葉がピッタリ



もう、何度もお誘いをキャンセルしてるうちに、足腰に自信が無くなつてきてしまいました。旅は歩くもの。出かける事に不安が押し寄せてくる。娘たちとの遠出は、気に掛けてくれるから安心。還暦を超えた同級生には、迷惑掛けられない。さて、どうしたものだろう・・・。

もしかしたら、私には、今回が最後かも知れなくとも思っています。

ちたから見た日本仏教 Vol.2

「菩薩道物語②」
久田健吉 (哲学研究者)

その時、浮かんだのがヘーゲルでした。私はヘーゲルの普遍的理性の心はこの聖人たちが説いた隣人愛の心に違いないと思いました。よく分からないままにヘーゲル、ヘーゲルと言っていたのは、きっとそうだとどこかで確信していたからなのだと。そこで大同高校を早期退職をして、ヘーゲル哲学の権威である福吉勝男教授のいる、名古屋市立大学の人間文化研究科の博士課程に入学しました。ヘーゲル哲学を熟読し、隣人愛の心を身につけるためにです。

この研究科への入学のお陰で、ヘーゲルの超難解な書『精神現象学』が理解できるようになりました。そこに何が書かれていたか。まさしく隣人愛の心で共存しようという思想が書かれているのでした。

『精神現象学』はある意味で哲学史として書かれていますが、単に哲学史というだけでなく、人間は自由を求めて生きてきましたが、その自由探究史としての哲学物語が書かれているのでした。

ところが、なぜか人間は自由を求めながら不自由になるのです。これをヘーゲルは人間疎外と言います。なぜなのか。これを問う中で、人間は隣人愛で生きることの大切さを自覚するに至ったとヘーゲルは言います。つまり自由を求めて不自由になるのは、自分の自由を求めるだけで、共存のみんなでも幸せになる道を求めて来なかったからと人間は反省します。この人間とはカントやルソーのことです。このことを知ってヘーゲルは、自分だけでなくみんなでも幸せになろう、これを求めて自由になることこそ、哲学の本当の課題だと言うに至ります。

おう、これがヘーゲルだったのかと分かり、私は改めて感動しました。私が求めてきた哲学を、ヘーゲルが、私に先んじて論じていることを知り、私は余計感動しました。彼の思想は聖人の隣人愛の思想の上に立っています。

しかし、ヘーゲルだけがこう説いているのではなく、哲学者と言われる人々はみなこう説いているのではないかと思い、哲学史を勉強し直しました。やはりみなこのように説いていました。

そうこうするうちに、知多で立派と言われている人々は、自分だけの幸せでなく、みんなでも幸せになることを願った人々です。彼らは哲学者ではないかと思えてきたので、「ちたの哲学者たち」と銘打って研究することにしました。それが当たり前、彼らのすべてとは言いませんが、ほとんどが哲学者でした。自分だけでなくみんなでも幸せになろうと努力した人であることが分かりました。(これについては、前の「知多の哲学散歩道」で51回にわたって詳述)

もちろんこれらの人々は、自分だけでなくみんなでも幸せになろうの精神を仏教から学んでいます。隣人愛でなく菩薩道ということになりますが、この意味で、仏教の菩薩道のすばらしさが見えてきたのでした。

私はこのことを踏まえて、これから、「ちたから見た日本仏教－菩薩道物語－」のお話をします。つまり、彼らがどう菩薩道を仏教から学び、どう生きたかという話です。既に述べましたが17人研究しました。しかしこれからは新しい場面での既述になりますので、まず、17人の思想をかいつまんで紹介することから始めます。並べてみると、実に壮観です。

(次号へつづく)

「Best8で僕はいいと思うよ」



涼しくなってきたよ。温泉が恋しいよ。僕たちがまだ幼稚園だった頃、温泉に行ったよ。その時も日帰りだから、浴衣だけ着て、記念の写真を撮ったよ。今は学校と部活と勉強が毎日あるから、お風呂に入浴剤を入れ、なんちゃって温泉を楽しんでいるよ。今日は、なんちゃって草津温泉を楽しもうって。

お兄ちゃんがサッカーをすごく頑張っているよ。ずいっと大会に出ているよ。部活を引退するその日まで、お兄ちゃんには目一杯楽しんでほしいよ。

(笑) (笑)

応募

日々の生活の中でチョットしたこんな事・あんな事・心とむす、面白いエピソード等この欄へどしどし応募してください。
(原稿用紙2枚程度)

応募先:あかい新聞 武豊店(郵送またはFAXにて)
住所:知多郡武豊町字金下37番地
TEL:0569-72-0356
FAX:0569-72-6002

決まってるよ。イケメンではない。相手。もう、あなたの顔色を伺う時は過ぎたよ。みんななど行ってくるからね、松本へ。なんと、びつくり(…返つてきた言葉が『行つていい』だつて。そして私は、なぜだか感謝してしまうのです。『ありがとうって』(笑)。

ハマグリ姫

若竹俳壇

作品募集
毎月十日までには葉書で
発行所へ

爽やかや空の色から海の色
ペーロンの櫂の跳ね上ぐ波しぶき
食前の薄めの梅酒旅の宿
秋刀魚焼く隣の猫がまた来てる
秋の朝雲間に見えるピンク空
米寿なお家事万端を担う秋
鯛雲風に吹かれて野良仕事
草むらに隠せず入りぬ烏瓜
推しメンの金沢ライブ九月尽
白萩のゆらりゆらゆら廻り道
堪え忍ぶ電柱囲む彼岸花
ヒーローになれぬど楽し運動会
稲穂垂れ収穫高の重さかな
足音の少し変わって今朝の秋
秋彼岸スマホ片手にあんど炊く
黒牛の潤む黒目や秋の風
銀杏の実炒りてはじけて口の中
彩雲をまとふ穂高や蕎麦の花
秋の灯や夫と共文机
兵十の狐の話秋深く
掌の内に聳く命大根時く
露天湯の秋日眩しき岩に靴
武雄神社千木の輝き草の花
萩芒競ひ合つて花野かな
手をとって母と矢勝の彼岸花
酒杯の留守番付や生身魂
雨上がり大根育ち手をそえる

関 里美
古川 義高
細井かね子
塚本 千鶴
山下みどり
江端 久恵
竹内 一穂
大津くによ
浦崎ひとみ
杉江 タエ
中村 照代
村井 範子
川瀬美佐子
竹内 佳香
竹内やす子
飯嶋美智子
荒川 達雄
田上 義則
山本なづな
岩橋 くみ
小山 英子
坂 靖久
横野 侃
山下 敏子
竹内あつ子
山下 悠児
中村 洋子

▼「はちと愉快な仲間たち」
作品展 はちとさんに素敵な仲間がコラボします。四日(火)九日(日)
◆木版画 縁 浮世絵の刷り師が伝統木版の技法で、浮世絵、オリジナル木版画、アクセサリーを制作
◆ともえ工房 漆やカシウで塗られたアクセサリーの数々
◆山ぶどうのかや、山ブドウの樹皮を用いて育てていくバッグなど
▼「知多もめん限られた世界」
たみちパッチワーク・十日(火)十六日(日) 今何となく作品の出逢いが、是非お出かけください、お待ちしております。
▼「やすぎの書展」澤田麗華・二十二日(土)・三十日(日)
「心に響く言葉」を作品にしました。皆様感動の共感をして頂けたら嬉しく思います。手作り小物コーナーも少し片隅に用意しました
◎「知多市子ども未来館」
午前九時～午後五時 対象どなたでも
▼令和八年一月十二日(月・祝)
「工作」えとがうま
内容 板に布や紙などで馬の形を作ります。来年のえとのかざりを作ります。一個 二百円
▼「はちと愉快な仲間たち」
作品展 はちとさんに素敵な仲間がコラボします。四日(火)九日(日)
◆木版画 縁 浮世絵の刷り師が伝統木版の技法で、浮世絵、オリジナル木版画、アクセサリーを制作
◆ともえ工房 漆やカシウで塗られたアクセサリーの数々
◆山ぶどうのかや、山ブドウの樹皮を用いて育てていくバッグなど
▼「知多もめん限られた世界」
たみちパッチワーク・十日(火)十六日(日) 今何となく作品の出逢いが、是非お出かけください、お待ちしております。
▼「やすぎの書展」澤田麗華・二十二日(土)・三十日(日)
「心に響く言葉」を作品にしました。皆様感動の共感をして頂けたら嬉しく思います。手作り小物コーナーも少し片隅に用意しました
◎「知多市子ども未来館」
午前九時～午後五時 対象どなたでも
▼令和八年一月十二日(月・祝)
「工作」えとがうま
内容 板に布や紙などで馬の形を作ります。来年のえとのかざりを作ります。一個 二百円
▼「はちと愉快な仲間たち」
作品展 はちとさんに素敵な仲間がコラボします。四日(火)九日(日)
◆木版画 縁 浮世絵の刷り師が伝統木版の技法で、浮世絵、オリジナル木版画、アクセサリーを制作
◆ともえ工房 漆やカシウで塗られたアクセサリーの数々
◆山ぶどうのかや、山ブドウの樹皮を用いて育てていくバッグなど
▼「知多もめん限られた世界」
たみちパッチワーク・十日(火)十六日(日) 今何となく作品の出逢いが、是非お出かけください、お待ちしております。
▼「やすぎの書展」澤田麗華・二十二日(土)・三十日(日)
「心に響く言葉」を作品にしました。皆様感動の共感をして頂けたら嬉しく思います。手作り小物コーナーも少し片隅に用意しました
◎「知多市子ども未来館」
午前九時～午後五時 対象どなたでも
▼令和八年一月十二日(月・祝)
「工作」えとがうま
内容 板に布や紙などで馬の形を作ります。来年のえとのかざりを作ります。一個 二百円

金 二千元(材料費を含む)
申込要
▼クリスマスツリーBOXアレンジ・二十九日(土) 午前十時～正午 講師 石黒幸代さん 対象 一般 定員 十二人 料金 二千七百円(材料費を含む) 申込要
◎武豊町民会館
ゆめたろうプラザ
▼厚生労働省社会保険審議会推薦児童福祉文化財「ラストの灯」十五日(土) ①午前十一時開演 ②午後二時開演 料金 前売 一般 二千三百円 当日 プライベート 二千円 子ども(三歳～中学生) 千円 大人(中学生以上) 千五百円 ※大人一名につき、二歳以下のお子様一名は無料(要おひざ券) 全席自由
◎長尾児童館
▼三電車に乗ろう 三日(月・祝) 午後二時～同三時半 申込要
▼ブレーバークで遊ぶ 十五日(土) 午後二時～同四時 申込不要
◎くすのき児童館
▼クリスマス飾り作り 二十二日(土) 午後二時～同三時半 申込要
▼わんぱくクラブ・六日(木)・二十七日(木) 午前十一時～同十二時半 申込要
◎富貴児童館
▼クリスマスリースを作ろう 十五日(土)・十六日(日) ①午前十一時～同十二時半 ②午後一時～同二時半 申込不要
▼けん玉検定会 二十三日(日) 午前十一時半～午後三時半 申込不要
◎半田空の科学館
▼熟睡プラザ寝たリウム「あこがれの南十字星&オーロラ」二十二日(土)・二十三日(日) 祝 午後三時半～同四時二十分 参加費 三歳～中学生 二百円 高校生以上 三百円 定員 百二十名 当日先着 問合せ 半田空の科学館 ☎2317175
ちた仏教物語「神原弱者救済所の神原亀三郎の菩薩道のお話」二十一日(金) 午後二時～同四時 講師 久田健吉(哲学研究者) 場所 満堂寺 ☎3512735 駐車場有り 会費 三百円(資料代等) 問合せ 久田健吉 ☎8208226

	で	コ	主	役	同	兄	徹	益
	き	笑	に	と	時	達	々	々
	た	顔	抱	し	に	が	笑	賑
	り	に	っ	て	成	溺	ま	や
	目	皆	こ	協	長	愛	しく	か
	が	メ		力	を	して	嬉	な
	見	ロ	次	し	と	い	しい	家
	え	メ	男	て	も	る	です。	族
	て	口	は	くれ	感	姿		にな
	き	ず	皆		い	を見	全	りそ
	て		の	助	て	ると	員	うで
	ニ	長	サ	かる	いま		男	す。
	コ	男	ポ	と	す。		子	
	ニ	は	ー	ト				



	我	河	入	「
	が	く	リ	あ
	家	ん	し	ー
	の	が	て	う
	三	家	早	ー。
	男	族	ろ	お
	坊	に	ケ	喋
		仲	月	り
	大	間		

中日新聞
あかい新聞店 武豊 0569(72)0356
常滑 0569(35)2861

武豐 0569(72)0356 常滑 0569(35)2861

武豊店 ☎ 0569-72-0356 常滑店 ☎ 0569-35-2861